

佐世保市平成 30 年度 新要録様式（佐世保版）実施の調査に関する報告書

門田理世（西南学院大学）

諫山裕美子（西南学院大学研究生） 中ノ子寿子（西南学院大学大学院生）

佐世保市幼児教育センター

1. はじめに

本報告書は佐世保市の新要録様式（佐世保版）実施の平成 30 年度調査結果を報告するものである。

佐世保市では、保幼小連携を促進するためにこれまで異なっていた保育所、認定こども園、幼稚園の要録様式を可能な限り統一した新要録様式（佐世保版）を平成 27 年度から導入しており、平成 29 年度末で 3 年が経過した。平成 30 年度に実施された、保育所・認定こども園・幼稚園（以下、乳幼児教育施設）の要領・指針の改訂においては、幼児期の教育内容の整合性が図られ、より一層小学校との接続が意識されてきている。同時に要録に関しても国から新たに参考様式が示されており、3 年目の調査となる今年度は佐世保市独自で導入している要録の活用実態や様式変更の是非について再検討することとした。以下、アンケート調査法を用いて行った分析結果について、要録の目的、活用の実態や展望、様式の見直しの 3 点から報告をする。

2. アンケート調査の概要

【調査対象】 佐世保市内の全小学校、認可保育所、認定こども園、幼稚園

【調査期間】 平成 30 年 7 月（平成 29 年度要録の使用、送付／受取りについて）

【アンケート調査項目】

小学校

- ・回答者属性
- ・受け取った要録をいつ読むか
- ・今年度入学した 1 年生の要録を読んだか
- ・小学校では要録を誰がどのような目的で活用しているか
- ・今後要録をどのように活用できるか
- ・小学校が要録を受け取る目的は
- ・佐世保版要録を見直す必要があるか

乳幼児教育施設

- ・回答者属性
- ・要録を書く目的は
- ・要録を書く際、最も意識している点は
- ・小学校で要録をどのように活用してほしいか
- ・小学校で要録が活用されていると思うか
- ・要録を記入する際の戸惑った項目
- ・佐世保版要録を見直す必要があるか

3. 結果

【アンケートの回答者属性】

表 1 アンケート施設別回答数と回答者の担当職

	対象施設			有効回答数	回答者									
	送付施設数	回収施設数	回収率		回答者の内訳（今年度の担当職）									
					園長	主任	年長担任	校長	副校長	教頭	教務主任	1 年担任	その他	無回答
認可保育所	61	57	93.4%	83	11	20	21	—	—	—	—	—	27	4
幼稚園	9	9	100.0%	20	5	1	4	—	—	—	—	—	10	0
認定こども園	34	34	100.0%	63	3	22	11	—	—	—	—	—	22	5
乳幼児教育施設計	104	100	96.1%	166	19	43	36	—	—	—	—	—	59	9
小学校	46	46	100.0%	84	—	—	—	3	1	11	4	58	4	3
合計	150	146	97.3%	250	19	43	36	3	1	11	4	58	63	12

※「教務」と「1 年生担任」の複数選択；「教務主任」、「主任」と「年長組担任」の複数選択；「主任」として計数

アンケート回収率は昨年の 94.2% よりも上昇し、97.3% となった。佐世保市の保育・教育機関の要録への関心・意識の高さが伺える。

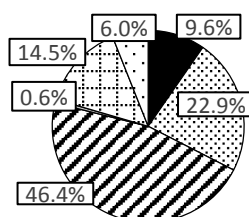


図 1 昨年度の担当職（乳幼児教育施設）

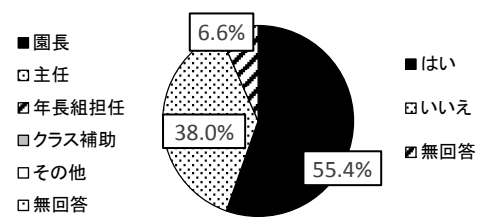


図 2 要録記入の有無（乳幼児教育施設）

I 要録の目的について

1) 要録の目的

乳幼児教育施設に「要録を書く目的」を、小学校に「要録を受け取る目的」を尋ねた。双方とも、<よりよい小学校生活のため><保幼小連携のため><長期的で連続性のある子どもの育ちのため>と、3つの軸が共通しており、要録が子どもの小学校生活をスムーズに、豊かにするためのものとして捉えられていることがわかる。

乳幼児教育施設においては、小学校側でないカテゴリーとして<育ちや指導の確認・記録のため>と<次年度以降のより良い教育・生活のため>の2軸が出て来た。記入する乳幼児教育施設側にとっての要録は小学校に送付するという目的のためにあるだけでなく、要録は子どもの育ちを記録するものでもあり、その記録から自分の保育を振り返り子どもの育ちを確認することにつながったり、次年度以降のよりよい教育・生活につながったりするというような多面的な目的を見出していると考えられる。

表2 乳幼児教育施設における要録を書く目的

カテゴリー	コード
よりよい小学校生活のため	小学校における子ども理解と指導(54)
	スムーズな移行(36)
	子どものよりよい小学校生活(32)
長期的で連続性のある子どもの育ちのため	子どもの育ちをつなげる(31)
	連続性をもった子どもの育ち・教育(17)
保幼小連携のため	小学校との連携(22)
育ちや指導の確認・記録のため	子どもの育ち・指導の記録(10)
	子どもの育ちの確認(4)
	保育者の保育の振り返り(2)
次年度以降のより良い教育・生活のため	次年度の子どもの理解と指導(6)
	次年度の生活への移行(5)
	その後の子どもへのよりよい教育(3)

目的のためにあるだけでなく、要録は子どもの育ち

表3 小学校における要録を受け取る目的

カテゴリー	コード
よりよい小学校生活のため	小学校における子ども理解と指導(52)
	スムーズな移行(6)
	子どものよりよい小学校生活(3)
保幼小連携のため	保幼小連携(16)
長期的で連続性のある子どもの育ちのため	連続性をもった子どもの育ち・教育(12)
	子どもの育ちをつなげる(6)
	その他(1)

2) 乳幼児教育側の要録を書く意識

乳幼児教育施設に、要録を書く際に最も留意、意識している点について尋ねた(図3)。その結果、<子どもの何を書くか><園での指導・保育の過程><記述の際の配慮点>の3つの軸に分かれ、保育

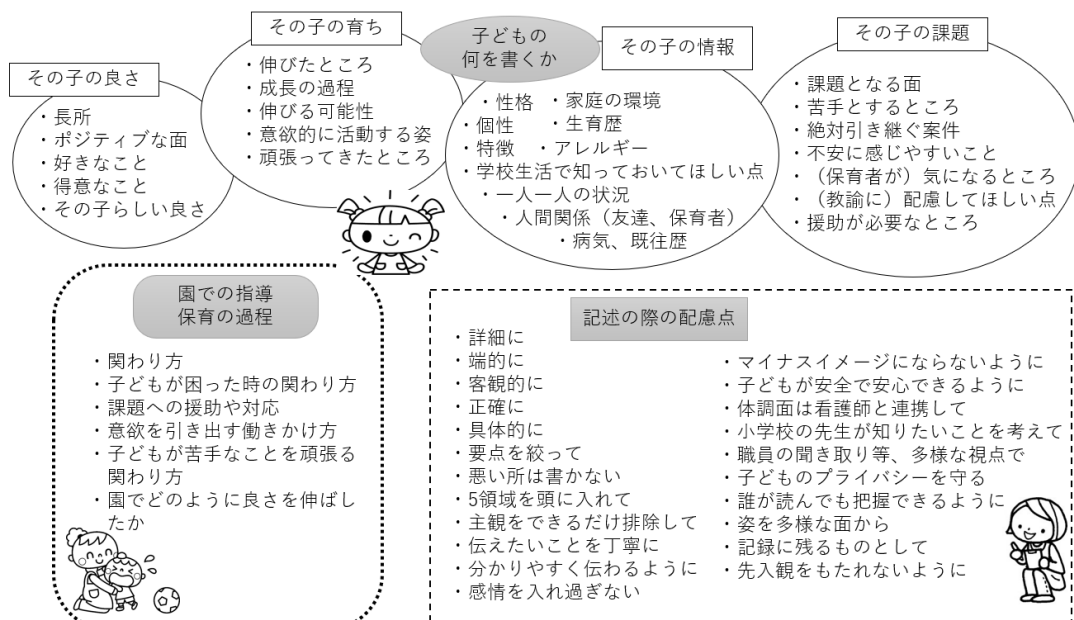


図3 要録を書く際に最も意識する点

者が多くの視点をもちながら要録を記入していることが明らかとなった。

Ⅱ 要録の活用について

1) 現在の小学校における活用実態

要録の既読の有無 小学校側に今年度入学した子どもの要録を読んだかどうか尋ねたところ（図4）、59.8%が「全員分」を読んでいた。「数人分」「簡単に全体を把握」の29.9%を合わせると、89.7%が要録に目を通していている。全員分を読んだ回答者の割合は、昨年度の53.0%よりもわずかに上昇している。

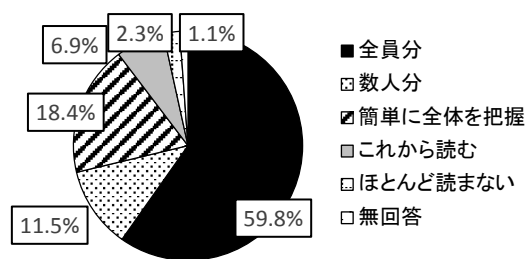


図4 今年度の要録の既読の有無（小学校）

要録を読む時期 小学校側に要録を読む時期について尋ねたところ（図5）、「4月1日～入学式」までが最も多く、次いで「5～6月」であった。また、この設問は複数回答可としていたが、複数に回答した教諭は21人（25%）であり、回答者の4人に1人が要録を複数回見ていると言える。ただし今回の調査では時期ごとに何を目的として要録に目を通すのかについては尋ねておらず、要録を読む目的とその時期の関係性は明らかになっていない。今後小学校での要録活用に関する実態をより詳細に明らかにするため、要録を読む時期ごとの目的について調査する必要がある。

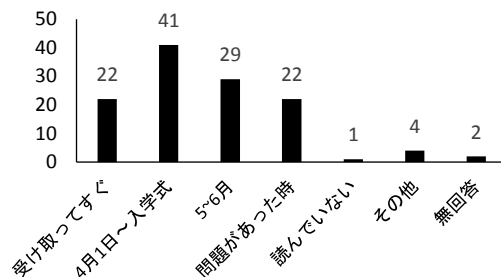


図5 要録を読む時期（小学校）

要録活用の使用者と内容 小学校では「誰」が「どのように」要録を活用しているか、3つの記述欄を設けて尋ねたところ、回答者の約半数が要録を活用する人や方法を複数記述していた。また要録の活用者は「1年生担任」が92.6%と高く（図6）、活用内容は「児童の実態把握・理解のために活用」>「小学校での指導のために活用」>「子どもの小学校生活のために活用」>「指導要録記入のために活用」の傾向が示された（表4）。

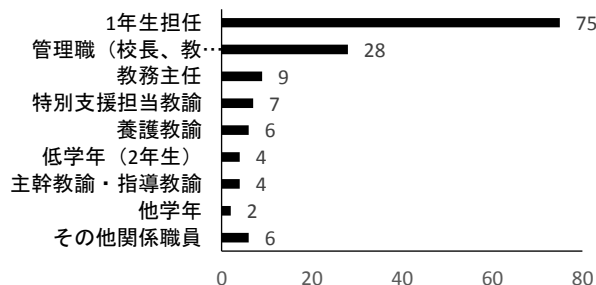


図6 要録を活用する使用者（小学校）

表4 要録活用の内容

児童の実態把握・理解のために活用	児童の理解	35
	児童の実態把握	31
	児童の様子を知る	16
	特別支援・課題の把握	8
	児童の情報（保護者名や住所）の把握	6
	家庭環境の把握	4
小学校での指導のために活用	児童の健康管理	2
	指導に生かす	18
	児童を理解し、指導に生かす	3
	学級経営	2
	支援を要する子どもの対応	1
	問題が起きた時の指導	1
	気になる時の確認	1
子どもの小学校生活のために活用	学級編成	19
	小学校へのスムーズな移行	1
指導要録の記入のために活用	指導要録の記入	3

2) 乳幼児教育施設側の実感

乳幼児教育施設側に小学校で要録が活用されていると思うかと尋ねたところ（図7）、「はい」「どちらかといえばはい」が52.4%、「どちらでもない」が29.5%、「どちらかといえばいい」「いいえ」は14.5%であった。この割合については昨年度とほぼ変わっておらず、新要録様式が導入されて3年目となっても約半数が活用を実感できていないという課題が改めて浮き彫りとなる結果になった。選択回答の理由としては、「活用されているか分からない」という回答も多い。要録が小

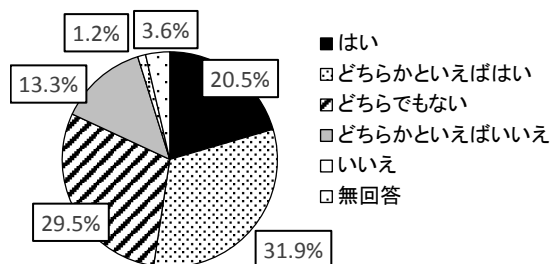


図7 小学校で要録が活用されていると思うか（乳幼児）

学校でどのように活用されているかを、乳幼児教育施設の保育者が実感できるような手立てについて模索していく必要がある。

3) 要録活用の展望

今後どのように要録が活用できるかについて、双方の施設に尋ねた回答を大きく分類したものが、表5・表6である。どちらも＜小学校での指導のために活用＞＜子どもがよりよく生活するために活用＞＜長期的で連続性のある子どもの育ちのために活用＞＜保幼小連携のために活用＞＜要録の役割・活用法について＞の5つの軸が抽出された。乳幼児教育施設では、[教育内容をつなぐ][子どもの育ちの連続性]は昨年度にみられなかった回答であり、要録を子どもの育ちをつなぐものとして捉える視点が芽生えてきている。小学校では、昨年度18.0%であった[現状で十分]が7.1%に減り、そのことから今後さらなる活用の可能性を見出していることが示唆された。

活用目的	項目	割合
小学校での指導のために活用	個に応じた対応	48
	子どもの実態把握・理解	33
	問題があった時の参考	12
	保護者との連携	7
	教諭の指導の参考	14
	学校全体での共有	5
	特別な支援を要する子への対応	3
要録の役割・活用法について	要録活用の時期	24
	要録は参考資料として	6
	要録の在り方	5
	要録への期待	2
子どもがよりよく生活するために活用	小学校生活への適応	22
	学級編成	11
長期的で連続性のある子どもの育ちのために活用	教育内容をつなぐ	14
	子どもの育ちの連続性	5
保幼小連携のために活用	保幼小連携のきっかけ	10

活用目的	項目	割合
小学校での指導のために活用	子どもの実態把握・理解	34
	教諭の指導の参考	18
	問題があった時の参考	14
	特別な支援を要する子への対応	5
	個に応じた対応	3
	保護者との連携	2
	現状で十分	6
要録の役割・活用法について	要録活用の時期	4
	要録の在り方	1
	学級編成	4
子どもがよりよく生活するために活用	小学校生活への適応	2
	子どもの育ちの連続性	4
保幼小連携のために活用	保幼小連携のきっかけ	8

Ⅲ 要録様式の見直しについて

1) 要録の見直しについて

冒頭で述べたように、今般の要領・指針の改訂を受けて、国から要録の新たな参考様式が示された。そこで、今年度新たにアンケートに追加した「国の要録参考例をもとに、佐世保版要録を見直す必要があるか」と尋ねた。全体として、「見直した方がいい」が17.6%、「見直さなくてもよい」が36.0%、「どちらでもない」が44.4%となり、見直しを必要だと捉える意識は低いと言える。（各施設別の内訳は、図8・9に掲載する。）ここで、それぞれの項目を選択した理由について詳述する（表7）。

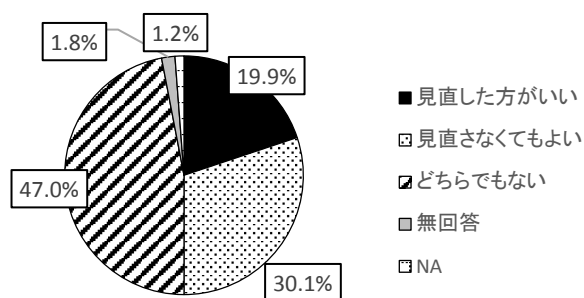


図8 要録の見直しに関する意識（乳幼児教育施設）

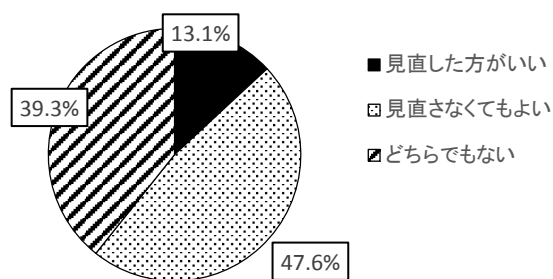


図9 要録の見直しに関する意識（小学校）

表7 見直しに関する選択項目を選んだ理由

見直した方がよい (理由の回答 45)	どちらでもない (理由の回答 75)	見直さなくてよい (理由の回答 62)			
要領が改訂されたから見直す必要	9	様式変更が頻繁すぎる	9	現状で十分	50
全国・県との統一	8	国の参考事例が分からない	8	変えたばかりのため	3
より細かく・詳しく・追加	6	小学校側のニーズの有無	8	要領に準拠できている	3
より簡潔に	4	分からない	8	改訂のポイントを記入者が意識すれば	2
現状、3施設でバラバラである	3	現状で十分だが検討する必要	6	具体的な改善点の提案	1
書き方の共通理解	3	現状で十分	5	何も思わない	1
10の姿を取り入れることの検証	3	具体的な改善点の提案	4	様式を変える手間を省く	1
2枚に分割する方がよい	2	現状、3施設でバラバラである	3	要録そのものの限界	1
時代の変化に合わせた検討の必要性	2	全国・県との統一	3		
保幼小で連携して作成を	1	より良くなるなら良い	3	[現状で十分] の理由	
現状で十分	1	活用されている実感がない	2	簡潔な方が活用される	
具体的な改善点の提案	1	現状の具体例が足りない	2	記入しやすい	
手書きが大変そうと感じる(小学校)	1	常に良い書式を求め続ける必要性	2	子どもの姿が伝わる	
常に良い書式を求め続ける必要性	1	要領が改訂されたから見直す必要	2	今後の活用が重要	
		10の姿を取り入れることの検証	2	佐世保市全体で統一されているから	
		円滑な接続ができればどちらでもよい	1	小学校と連携がとれている	
		園として県のものを使用する	1	保幼小が一緒に作成した様式のため	
		時代の変化に合わせた検討の必要性	1	様式に満足	
		乳幼児教育施設のニーズの有無	1	読みやすい・活用しやすい	
		変更したら対応に努力	1	不都合はない	

「見直した方がよい」17.6% [要領が改訂されたから見直しが必要] など、法令の改訂に伴う検討の必要性が挙げられた。また、[全国・県との統一] は、転入・転園をする子どものことを考え、統一した方がいいのではと懸念が記述された。

「見直さなくてよい」36.0% [現状で十分] が50と大半を占めた。[現状で十分] と回答した中でも理由について詳しい記載があるものを見ると、「現在の様式で見やすい」などの意見の他に、「保幼小が一体となって作ったから」などの意見もあり、これまでの要録の出来た経緯を踏まえてその価値を見出していることも示唆された。

「どちらでもない」44.4% 最も回答数が多く、理由も多岐に渡った。詳しくみると、様式変更が頻繁なので現状維持を推すもの、現状に満足しているが要領の改訂に伴う検討の必要性を感じているもの、「分からない」と判断がつかないことを示しているものなどが見られた。また、「様式よりも活用方法が重要である」ことや「より良くなるならそれでいい」、「変更されたら努力する」などの意見もみられた。

2) 要録の項目について

乳幼児教育施設側に要録の記入に際して戸惑った項目を尋ねた結果(表8)、回答数は110、無回答は56であった。戸惑った項目で最も多い項目は「子どもの育ちに関わる事項」で、次いで「養護」の項目であった。

また、戸惑った項目についてその理由を尋ねると、その内容は多岐にわたり、大きく10のカテゴリーに分けられた(表9)。最も多い意見は<情報を書く範囲>に悩むものであり、保護者からの情報開示請求や子どもの姿を詳細に書きすぎることに伴う懸念について記述された。要録は、限られたスペースに文字で子どもの姿を現す難しさがあり、そのような難しさへの保育者の悩みが回答から多々見受けられた。また、<項目の区別>や<記入方法・記入内容>に関する戸惑いも挙がっている。新要録様式を導入

表8 要録の記入の際に戸惑った項目(複数回答)

戸惑った項目	回答数
子どもの育ちに関わる事項(全)	61
養護(保・認こ)	36
教育(発達援助)に関わる事項(保のみ)	6
指導の重点(幼・認こ)	4
教育・指導上参考となる事項(幼・認こ)	7
健康に関わる事項・配慮点(全)	4
出欠状況(幼・認こ)	2
その他(全)	22
無回答	56

※要録には全施設共通の項目と、施設ごとに異なる項目がある

してから3年目となっても未だに、要録の書き方や項目の認識が精通されていない。今後、要録様式の書き方や記述内容等については、行政説明や研修を通して周知徹底をする等により具体的な策を講じる必要がある。

4. まとめと今後の課題

平成27年度から導入した新要録様式（佐世保版）が3年目を迎えたが、アンケートの回収率が変わらず高いことに佐世保市内の全施設・全校の保幼小連携の意識の高さが伺える。また、小学校においては、アンケートに回答した7月の時点で要録に目を通して回答者が約9割にのぼり、要録を活用することに対する意識が浸透している。また、要録見直しの是非に関する設問に対して小学校教諭の意見は「現状のままで十分」といった回答がほとんどであり、「乳幼児教育施設で要録の様式を統一しているから見やすい」、「今のもので子どもの様子がよくわかる」などの意見から、統一された佐世保版の要録様式がこの要録既読率の成果につながっていると考えられる。また、例年尋ねている「今後、どのように要録が活用できるか」

との問いに、長期的な子どもの育ちを見通した回答が増えてきている。乳幼児教育施設が苦労して丁寧に記述する要録が、小学校やその後の教育において活用されていくことで、佐世保市の子どもを双方が支えていくことにつながっていくと考えられる。

3年間の調査における継続的な課題として、小学校での要録活用の実態が未だ乳幼児教育施設側に十分認識されているとは言い難い点があげられる。要録が小学校側でどのように活用されているかを乳幼児教育施設側が実感できるような取組を検討し、佐世保市の子どもの育ちを長期的且つ継続的に共有するための要録の在り方について保幼小間で共通認識を築くことが肝要である。

今年度は新たに、要録見直しに関する項目を設けて意識の確認を行った。要録の見直しが必要だとする意見は小学校・乳幼児教育施設の双方で2割を切り、現状の要録に満足している回答が多く見られた一方で、検討を要する項目や時代の流れも踏まえなくてはいけないことが示唆された。佐世保市は、来年度以降も保幼小連携推進会議等の年間の予定会議において協議し、提案していく予定であるが、アンケートに表出した実践者の声にあるように、佐世保市は丁寧にその経緯や方針を説明し、要録を使用する保育者の戸惑いが少なくなるよう、手立てを考えていく必要がある。

表9 要録の項目に戸惑った理由（乳幼児教育施設）

情報を書く範囲	家庭環境等どこまで書くべきか	20
	どこまで細かく書くべきか	7
	小学校はどこまでの情報が必要か	3
	どの時点から書くべきか	2
	細かすぎると先入観をもたれる不安	1
項目の区別	項目の区別が分かりにくく内容が重複する	18
	養護とその他の項目の区別が分からない	4
端的に書くこと	育ちを端的にまとめる難しさ	9
記入方法・記入内容	記入の仕方、内容が分からない	7
	書き方の参考例がないこと	2
個人情報を書く不安	保護者への開示の可能性	5
	家庭の情報が確かでないこと	2
	個人情報を記入しても良いのか	1
書く側の課題	表現力・国語力・言葉の選び方	4
	伝わるように書くことの難しさ	2
	初めて書くので戸惑いばかり	2
	書くスペースが足りない	1
	入園当初からの情報収集が困難	1
	子どもの理解が十分であるか	1
個別の子どもの書き方	記述内容が合っているのか	1
	子どもの課題の書き方	5
	診断がついていない子どもの記入	2
	子どもによって書き方が難しい	2
ニーズへの対応に不安	転園児の育ちの記入	1
	園が伝えたい事と小学校が必要な事の差異	1
様式に関する疑問	小学校が必要な情報を書いているか	2
	出席状況を区切る日（3月31日は？）	1
その他	パソコンでの上書きで押印をし直すこと	1
	書式が変わり、後輩への指導が難しい	1
	小学校での指導を勉強する必要性	1
	周りの子どもと比較する評価を書かざるを得ない	1
	保存される要録の責任の重み	1

以上